

中華人民共和国の成立

中国国民党を国民党、中国共産党を共産党、アメリカ合衆国をアメリカと記す。

- 1) 中国は戦後、五大国の一員としての地位を認められたが、抗日戦争末期から国民党・共産党の主導権争いが表面化し、衝突が起きた。
 - 1945年8月 重慶で国民党と共産党、43日間も交渉。その結果が双十協定。
 - 1945年10月 双十協定 国内和平・内戦回避で合意。政治協商会議の招集を決めた。
 - 1945年11月 双十協定にも関わらず国共内戦が開始された。
 - 1946年1月 国共停戦協定 米特使マーシャルの仲介で成立。
 - 1946年1月 政治協商会議 国共十少数政党・団体が重慶で会議。「施政綱領」を採択、平和に基づく建国の方針を確認した。国民党が停戦協定を破棄した。

なお、これより前、1945年には国民党政権はソ連と条約を締結、譲歩する姿勢を示し、国際社会に参加する意欲を見せていた。
- 2) 1946年7月 【1: 】再開される。

アメリカは蒋介石率いる国民党政権を支援したが、国民党政権は、幹部の腐敗や激しいインフレーションを解決できなかったため民衆からの支持を失い、**中国共産党**は支配地域で土地改革などを実行して農民の支持を得て、しだいに優勢となった。

 - 1947年1月1日 南京に戻った蒋介石らの国民党政権は【2: 】を公布し、憲政を行う姿勢を示したが、すでに民衆の心は国民党政権から離れつつあった。
 - 1947年3月 共産党は八路軍や新四軍を再編して、共産軍としての**人民解放軍**を編成した。

国民党の経済自由化政策で物価が急騰し民衆は困窮した。共産党は広大な農村社会をたくみに掌握して国民党との内戦を勝ち抜いた。国民党軍は敗退を続けた。
 - 1949年9月 【3: 】※1 勝利を目前にした共産党が北京で開催。蒋介石の国民党を除く諸政党、国民各層の代表を集めた。1954年まで、中華人民共和国の最高機関として機能した。

※1 1946年1月の政治協商会議と混同しないように。
 - 1949年10月1日 【4: 】建国宣言 主席は【5: 】。首相は【6: 】。首都は北京。
- 3) 国民党政権はかねてから台湾を支配していたが、戦勝者として住民に接したため反感をかい、1947年には大規模な抗議運動（二・二八事件）まで起きたが軍事力で制圧した。

1949年12月 蒋介石率いる国民党政権は【7: 】に逃れ**中華民国政府**を名乗った。

更に多くの軍・政府関係者が台湾に移住し、大陸の新政権と対立した。中華民国政府は、その後も国連で中国を代表し常任理事国の地位を占め続けたが、1971年に中華人民共和国の国連加盟によって中国代表権が中華人民共和国に移り（アルバニア決議）、国際連合から追放された。
- 4) 1950年6月～1952年 中華人民共和国政府は【8: 】を全国で実行した。地主の土地を没収、耕作農民に分け与えた。銀行や工場を国有化した。
 - 1950年 ソ連と【9: 】を締結し、社会主義圏に属する姿勢を鮮明に示した。
 - 1953年【10: 】
 - ……ソ連の援助を受け、重工業優先で行い、農業の集団化も急速に行う。
 - 経済における中央集権体制が確立されたとして、彼ら自身は、「成功」と評価。
 - 1954年 新憲法が採択された。
 - 1958年【11: 】
 - ……人民公社化や電力網、道路網の建設を推進（**大躍進政策**）、**大失敗**した。
 - 「大躍進」と称する明らかに過重な計画を立てられ強引に遂行されたが、実行できず立ち消えになった。1959年から3年続いた凶作などで、生産は停滞、第2次五か年計画は途中で放棄された。**餓死者は1500万人**とも言われている。そもそも、この計画は、**急進派の毛沢東が劉少奇、鄧小平らの穏健派を抑え込み、強引に実施したもので、この大失敗によって毛沢東は国家主席の地位を劉少奇に譲った。**
 - 文化大革命（1966～）→毛沢東死亡（1976年9月）→「四人組」逮捕（1976年10月）
- 5) ソ連、イギリス、インド、東南アジア諸国は中華人民共和国を承認、国交を樹立したが、ソ連とともにアメリカの「封じ込め政策」の対象とされ、外国資本の導入は困難だった。**重工業化のための資本は農業分野から得るしかないため、農民からの収奪は厳しいものとなった。**この状態は、アメリカが1972年に中華人民共和国を承認するまで続いた。それまで台湾海峡はずっと緊張が続いた。
- 6) チベット 辛亥革命後、一時独立の気運あり。
 - 1951年、中国軍が進駐。1959年に、仏僧（ラマ）や貴族を中心に暴動が起きた。
 - 【12: 】はインドに亡命した。

朝鮮半島の分断

- 1) 1945年8月、敗戦後日本は広大な占領地域を本来の持ち主に返還した。朝鮮は直接統治していたため返還すべき相手政府が存在しなかった。朝鮮各地に建国準備委員会が立ち上げられ、1945年9月、李承晩を主席とする「朝鮮人民共和国」の建国を宣言した。しかし、南部から進駐してきたアメリカ軍に抑え込まれ解散させられた。中国東北部から朝鮮半島にソ連軍が進駐し、**北緯38度線**を境に、北部はソ連が占領、南部はアメリカ合衆国が占領した。
- 2) 当初は米ソ共同委員会で南北の統一方法が模索されたが、米ソ冷戦が深刻化して決裂した。1946年、南北の往来が厳しく

禁止され、朝鮮半島は、事実上、南北に分断された。

北緯38度線以南：アメリカは1948年に選挙を強行。（1948年は冷戦開始の年）

1948年8月 【13: 韓国】 成立 大統領＝【14: 이승만】 イスンマン 任1948-60
(略称＝韓国) 首都＝ソウル

北緯38度線以北：建国準備委員会改組の人民委員会で共産党の影響力強まる。

1948年9月 【15: 北朝鮮】 成立、首相【16: 김일성】 キムイルソン 任1948-94
(略称＝北朝鮮) 首都＝ピョンヤン (平壤)

旧日本領東南アジア

- 1) フィリピン 1946年7月、フィリピン共和国としてアメリカから独立。
- 2) インドネシア 1945年8月、日本降伏後にインドネシア独立宣言。オランダはこれを認めず4年間の独立戦争に突入。1949年、ハーグ協定で独立承認、インドネシア共和国として独立。初代大統領は【17: Sukarno】。No.180で詳述。

旧フランス領インドシナ ベトナムの南北分断

フランスはイギリスと異なり本国の戦後復興に植民地は必要と考え、独立運動を武力で抑え込もうとしたため深刻な事態を招いた。

- 1) ベトナムでは、【18: Ho Chi Minh】 が日本の占領下でベトナム独立同盟 (ベトミン) を組織した。彼らは、戦争終結後、1945年、ベトナム民主共和国の独立を宣言したが、宗主国フランスはこれを認めず、1946年、【19: Dien Bien Phu】 (～1954年) が勃発した。これは「内戦」ではなく、侵略戦争である。
【19: Dien Bien Phu】 (ベトナム民主共和国) 対 【20: France】 (フランス軍) (支援したのはアメリカ)
- 2) この戦争中の1949年、フランスは阮朝最後の皇帝バオ=ダイ ※1 を元首にヴェトナム国 1949-55 を独立させた。
- 3) 1954年4月 フランス軍は【20: Dien Bien Phu】 で大敗北を喫した。これは植民地軍が本国軍と正面から戦って勝利した人類史上最初の例とされる。図1参照。
- 4) 1954年7月、フランスはベトナム民主共和国と【21: Geneva Conference】 を締結し、撤退した。【21】は「北緯17度線付近のベン=ハイ川を暫定的な軍事境界線とし、南北統一選挙を行う」と定めた。なお、この1954年のジュネーブ国際会議は、ラオスとカンボジアの独立にも承認を与えた。《重要》世界的にも「緊張緩和」の方向にあった。
- 5) アメリカはこの協定に調印せず。南北統一選挙に反対のゴ=ディン=ジエムらを支援した。しかも、同1954年に、「東南アジアにおける共産主義勢力の拡大を阻止する」という目的で、【22: SEATO】 (SEATO シアトー) を結成した。原加盟国は、イギリス・フランス・オーストラリア・ニュージーランド・フィリピン・タイ・パキスタン。
- 6) 1955年には、アメリカに支援されたゴ=ディン=ジエム政権が南部にベトナム共和国を樹立したため、ベトナムは南北に分断された。

※1 阮朝第13代国王 (位1925-45)。退位後、香港に亡命していたが、1949年、フランスに擁立されてヴェトナム国主席 (任1949-1955) となる。



旧フランス領インドシナ カンボジア・ラオス

- 1) カンボジアは、戦後、フランス連合国内での不完全な独立しか得ていなかった。国王の【23: Norodom Sihanouk】 は、1953年、独立式典を行い、完全独立を達成。1954年、ジュネーブ国際会議で国際的承認を得た。
- 2) ラオスも、1949年に、フランス連合国内での不完全な独立を認められたが、1953年に、フランスとの条約で正式に独立し、1954年、ジュネーブ国際会議で国際的承認を得た。しかし、内戦が始まった。

旧イギリス領の東南アジア ビルマ・マレー半島

- 1) 英領ビルマ 独立は1948年、ビルマ連邦共和国としてイギリス連邦を離脱した。詳細はNo.180
- 2) 英領マレー 1948年、イギリスがマレー人に有利な英領マラヤ連邦を成立させると、マラヤ共産党は武力闘争を開始。イギリスはこれを徹底的に弾圧した。1957年には、マラヤ連邦として完全独立を達成。1963年、マラヤ連邦、シンガポール、イギリス領ボルネオ (ボルネオ島北部のサバ、サラワク) を加えて【24: Malaysia】 が成立した。マハティール首相 任1981-2003 は日本の経済成長に学ぶ「ルック=イースト」を提唱した。1965年、マレーシア連邦から【25: Singapore】 が分離、独立。シンガポールは華人が多く、マレー人優先政策に反発して独立した。現在も人民行動党による「開発独裁」型国家として知られる。一都市からなる小国家 (人口密度はモナコに次いで世界2位) である。知日家でもあるリー=クアンユー首相 任1965-90 の下で経済成長。

2003 上智大学 (抜粋) 4. 正しいものを一つ選びなさい。

- a 国際連合の安全保障理事会は、当初、米、英、仏、ソ連の4常任理事国で発足し、1949年10月の中華人民共和国の成立をまって、1951年6月に中国が加わり、5常任理事国となった。
- b 国際連合の安全保障理事会は、5常任理事国のほか、ドイツ、日本、イタリア、カナダの4非常任理事国を含む9か国によって構成されている。
- c 国際連合の安全保障理事会の常任理事国は拒否権を持っているため、これまでのところ安全保障理事会には全会一致が可能な妥協的な決議案しか提出されていない。そのため、これまで常任理事国による拒否権は一度も行使されたことがない。
- d ソ連が持っていた常任理事国の地位は、1991年末のソ連解体後はロシアが継承している。

正解 d